

平成 27 年度自己点検評価に際しての外部意見

平成 27 年度の自己点検評価に際して、人間福祉学部は、「神奈川県社会福祉士会」より、また、子ども未来学部は、「川崎市麻生区役所地域みまもり支援センター」ならびに「川崎市こども未来局運営管理課」より外部意見を聴取した。以下にその結果を示す。

○ 人間福祉学部

各学科（社会福祉学科、心理福祉学科）及び各委員会等（教務委員会、進路指導委員会、国家試験対策委員会、実習委員会、実習センター、地域交流委員会、地域交流センター）の事業報告、事業評価について、学位授与方針、教育課程編成方針、入学者選抜方針との関係を基に検討いただいた。

概ね全体的にはそれぞれの方針に沿って事業運営がなされており、とりわけ国家試験の合格率や就職率の高さなどから、学生の学修成果について高評価が得られた。なお、実習に関しては、職能団体としても優秀な社会福祉士を世に出すために協力していきたいとの意見をいただいた。

○ 子ども未来学部（子ども未来学科）

1. 学部・学科の人材養成の理念を明確にしなが、地域交流・地域貢献を通じた特色ある保育者養成を目指していくこと。
 - ・乳幼児期の人間形成に資する保育者の資質・能力の養成
 - ・実習や事業参加による保育・子育て支援実践体験の充実
 - ・多様な人々とのふれあいを通じた人間としての優しさの滋養、コミュニケーション力の育成
 - ・論理的思考やプレゼン力、質問力を身に付けられる授業やカリキュラムの重要性
2. 学生理解に基づく教育実践のあり方を考え、実現していくこと。
 - ・実習教育における学生の実態の把握とそれに応じた指導のあり方
 - ・大学と実習受け入れ先（特に麻生区）との情報共有および共通理解の促進
 - ・園長講演、実習体験報告会など、現職保育者の研修を兼ねた授業実践の継続
3. 行政との連携・協力のあり方を常に見直しつつ、地域にある大学として麻生区との共催事業、連携事業を通じてその資源を活かしていく体制・方法を考えること。
 - ・連携・共催事業に対する学部・学科の人的資源を活用して取り組んでいくための体制や方法
 - ・センター化された学内施設ならびに人員の配置の必要性
 - ・大学施設・機能の開放による子育て中の親子から高齢者まで多世代を巻き込んだ地域包括支援
 - ・行政としての課題を解決する方策としての大学資源の活用
4. 学生募集の段階から、保育・子育てをめぐる制度の動向や社会状況に対応して活躍する人材の養成を目指していくこと。
 - ・大学・学部・学科の魅力、教育の特色を発信する方法の工夫
 - ・入学にあたっての明確な志望動機の重視とその意欲を高めていく教育内容
 - ・学生の進路志望を実現できる指導体制
5. 大学の保育者養成において身に付けるべき資質・能力に関する研究の充実を図ること。
 - ・養成すべき資質・能力の内容
 - ・養成段階から現職段階へと連続したキャリア形成、身に付けるべき資質・能力の順序性